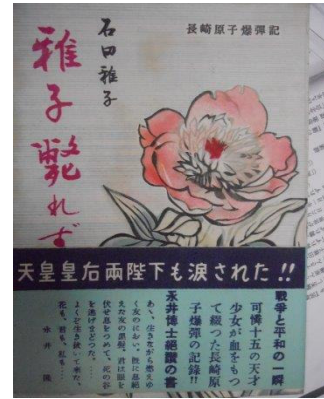


専修大学文化講演会

長崎原爆の体験 柳川 雅子（「雅子斃れず」の著者）

このたび、専修大学現代文化研究会では、今から73年前の長崎原爆の被爆体験者として著名な柳川（旧姓石田）雅子さんをお迎えして、講演会を開催することになりました。戦争や核兵器の恐ろしさと平和について考える貴重な機会かと思われます。皆様のご来場をお待ちしています。

（入場無料）



主催： 専修大学現代文化研究会

期日： 平成30年5月19日（土）午後2時00分～4時30分

場所： 専修大学神田キャンパス 1号館204教室

メトロ半蔵門線・都営地下鉄新宿線神保町駅A2出口 徒歩5分

講師： 柳川（旧姓石田）雅子 被爆直後の体験記「雅子斃れず」の著者

テーマ：長崎原子爆弾の被爆体験について

発起人：専修大学法学部教授内藤光博 拓殖大学政経学部教授椎名規子 弁護士
（元東京高裁部総括判事）奥山興悦 元福岡家裁所長若林昌子

柳川（旧姓 石田）雅子さんは、昭和6年文京区小石川に生まれ、昭和20年裁判官だった父の転勤に伴い、長崎高等女学校に転校（満14歳）。長崎市浦上の兵器工場に学徒動員として勤務中の8月9日原爆直下で被爆。奇跡的に一命をとりとめ、工場を脱出し、郊外の壕で一夜を明かしたあと、爆心地を彷徨して生還したが、間もなく原爆症のため、福岡の病院に入院。

東京にいた高校生の兄の穰一からの強い要請で、病院のベッドで自分の被爆体験を手記にまとめ、数回に分けて東京の兄に郵送。兄はこれを家庭新聞である「石田新聞」に「雅子斃れず」と名付けて連載し、家族・親戚・友人らに回覧。戦後、父壽はこれを出版しようとしたが、GHQは、表現がリアルで反米感情をあおるとして発禁処分とした。

昭和24年に長崎と東京で出版されるや、長崎原爆直後の少女の被爆体験記として全国的に評判になった。昭和60年に「暮らしの手帖」に再録され、平成5年NHKスペシャル「あの炎を忘れない 被爆少女の手記とGHQ検閲」が放映された。平成22年及び平成26年に復刻版が刊行され、平成29年同人歌誌「まがたま」に「私の原爆体験記」が掲載された。